

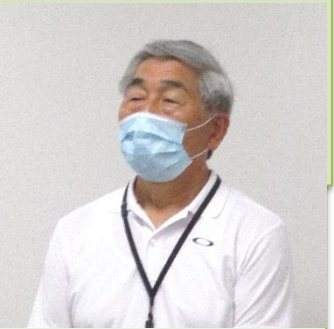


コラム

活動者の目から見た安全・安心まちづくり

地域の気遣い役として活動する地域防災支援担当者の委嘱式が7月13日に行われ、総勢26名の体制となりました。委嘱式後の研修会では、昨年度に引き続き奈良県安全・安心まちづくりアドバイザーの坂口幹彦さんにご講演いただきました。

今回は、新型コロナウイルス感染症という新たな災害に立ち向かうために私たちはどう行動していくべきかについて災害への対処法という観点からご寄稿いただきました。



新型コロナウイルスの蔓延を、一つの災害と捉え

使った分を買い足す《ローリングストック方法》を、今こそ実践しましょう！

突然、スーパーの売り場から「トイレットペーパー」が消えました。家庭紙は日本の国内製紙メーカーが24時間操業で生産しており、ティッシュ、トイレットペーパーの国産率は98.5%とほぼ100%国産なので物がなくなることはないのに、いい加減な風評のため店頭から商品が消えたのです。

その原因はインターネット上でデマが投稿されたことがきっかけで、SNSで拡散、さらに、買い占めの動きになっていったようです。昭和48年の第一次オイルショック時と全く事情が違うのになぜ？このような状況になるのか不思議でしたが、新型コロナ蔓延により不要不急の外出を控えて下さい！と、連日テレビやラジオで流されていたため、家族を守らねばと心理的に影響されたかもしれません。

また、ある日、突然、発酵食品の「納豆」「キムチ」「ヨーグルト」がスーパーの店頭から無くなりました。テレビで某コメンテーターが新型コロナウイルスには、免疫力が大切で発酵食品にはその効果が期待できると話されたようで、これもネットでも拡散していきました。冷蔵庫のない時代の日本古来の伝統食品である素晴らしい発酵食品は、味噌、醤油、あるいは、奈良漬など数えきれないほど沢山の種類があります。この食品が良いからと一時的に食するのではなく、日本人に合ったこの伝統的な健康食品を、今一度見直してみませんか。

情報化社会の中で、何が正しく、何が間違っているのか。テレビでやっていた、皆が言っていると、デマ（事実に反するうわさ）等に振り回されないようにしてほしいものです。

私は、市内外の小学校や放課後学童クラブの防災教室に出講していますが、学校防災クイズで子どもたちに問いかけますと、数多くの子供たちは《人のうわさ》は信じたらダメと、はっきり答えてくれます。大人たちよ、しっかりして！…と言いたい。

新型コロナウイルスは、まだ、消滅していません。今回の教訓を忘れずに、さらには30年以内に起こる確率が80%と言われる南海トラフ巨大地震の備えも含め、家族の命や生活を守るため、生活用品は少し多めに買い、使った分を買い足す《ローリングストック方法》を、今こそ、日常生活で実践しましょう！

今後も起こりうる不可解なウイルスの蔓延や大災害時、困るのは、ご自分（家族）ですから。

【プロフィール】

坂口 幹彦 奈良県安全・安心まちづくりアドバイザー

桜井市朝倉台自主防災会（平成18年度奈良県防災功労者知事表彰、平成30年度第9回あしたのなら表彰知事表彰を受賞）副会長。ボーイスカウト歴35年の野外活動を活かして「そなえよ、常に」をモットーに、いつ起こるかわからない自然災害に備えて、地域の防災・減災活動を行っている。また県下各地からの要請を受け「防災訓練」の支援や「防災講演会」、「学校こども防災教室」、「放課後学童クラブ子ども防災教室」に出講している。